様式1-1

大学等名	多摩大学
プログラム名	多摩大学 数理・データサイエンス・AI教育基礎プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

経営情報学部

③ 修了要件

プログラムを構成する科目すべて、下記2科目合計4単位を修得すること。
1. AIの活用基礎、2. ICTコミュニケーション入門

必要最低科目数・単位数　2 科目　4 単位　履修必須の有無　令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AIの活用基礎	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AIの活用基礎	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AIの活用基礎	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AIの活用基礎	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
ICTコミュニケーション入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「AIの活用基礎」（第1回） ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「AIの活用基礎」（第1回） ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「AIの活用基礎」（第1回） ・複数技術を組み合わせたAIサービス「AIの活用基礎」（第1回） ・人間の知的活動とAIの関係性「AIの活用基礎」（第1回） ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「AIの活用基礎」（第1回）
	1-6	・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど）「AIの活用基礎」（第5回） ・AI等を活用した新しいビジネスモデル（シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど）「AIの活用基礎」（第5回）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「AIの活用基礎」（第1回） ・1次データ、2次データ、データのメタ化「AIの活用基礎」（第1回） ・構造化データ、非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽など）「AIの活用基礎」（第1回） ・データ作成（ビッグデータとアノテーション）「AIの活用基礎」（第1回） ・データのオープン化（オープンデータ）「AIの活用基礎」（第1回）
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり（生産、消費、文化活動など）「AIの活用基礎」（第2回） ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「AIの活用基礎」（第2回） ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「AIの活用基礎」（第2回）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「AIの活用基礎」（第3回） ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「AIの活用基礎」（第3回） ・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「AIの活用基礎」（第3回） ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「AIの活用基礎」（第3回） ・認識技術、ルールベース、自動化技術」「AIの活用基礎」（第3回）
	1-5	・データサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案）「AIの活用基礎」（第4回） ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介」「AIの活用基礎」（第4回）

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI:Ethical, Legal and Social Issues)「AIの活用基礎」(第8回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「AIの活用基礎」(第8回) ・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「AIの活用基礎」(第8回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「AIの活用基礎」(第8回) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「AIの活用基礎」(第8回) ・AIサービスの責任論「AIの活用基礎」(第8回) ・データ・AI活用における負の事例紹介」「AIの活用基礎」(第8回)
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「AIの活用基礎」(第9回) ・匿名加工情報、暗号化と複合、ユーザ認証、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「AIの活用基礎」(第9回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「AIの活用基礎」(第9回)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数・質的変数)「ICTコミュニケーション入門」(第9回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「ICTコミュニケーション入門」(第5回)
	2-3	・データの集計(和、平均)「ICTコミュニケーション入門」(第2回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・社会におけるデータ・AI利活用に関する知識やデータを適切に読み解く能力

様式1-2

大学等名	多摩大学
プログラム名	多摩大学 数理・データサイエンス・AI教育基礎プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

グローバルスタディーズ学部

③ 修了要件

プログラムを構成する科目すべて、下記2科目合計8単位を修得すること。
1. AI・ゲーム・デジタル産業、2. 調査法入門：量的

必要最低科目数・単位数　2 科目　8 単位　履修必須の有無　令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AI・ゲーム・デジタル産業	4	○	○	○					
調査法入門：量的	4	○	○						

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AI・ゲーム・デジタル産業	4	○	○	○					
調査法入門：量的	4	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AI・ゲーム・デジタル産業	4	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AI・ゲーム・デジタル産業	4	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
調査法入門：量的	4	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「AI・ゲームデジタル産業」（第1回目）/「調査法入門：量的」（第1回目）
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル（シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーション等）「AI・ゲームデジタル産業」（第3回目） ・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど）「AI・ゲームデジタル産業」（第3回目）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ等「AI・ゲームデジタル産業」（第3回目、第4回目、第5回目） ・データのオープン化（オープンデータ）「調査法入門：量的」（第1回目）
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり（生産、消費、文化活動など）「AI・ゲームデジタル産業」（第4回目、第5回目） ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「調査法入門：量的」（第5回目）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデルとシミュレーション・データ同化など「AI・ゲームデジタル産業」（第6回目）
	1-5	・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「AI・ゲームデジタル産業」（第5回目）
（4）活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護、EU一般データ保護規則（GDPR）、忘れられる権利、オプトアウト「AI・ゲームデジタル産業」（第7回目）
	3-2	セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性）「AI・ゲームデジタル産業」（第7回目）

(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「調査法入門:量的」(第3回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「調査法入門:量的」(第4回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「調査法入門:量的」(第4回目、第7回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「調査法入門:量的」(第7回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「調査法入門:量的」(第7回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「調査法入門:量的」(第10回目)
	2-3	・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)「調査法入門:量的」(第2回目) ・データの集計(和、平均)「調査法入門:量的」(第7回目) ・表形式のデータ(csv)「調査法入門:量的」(第10回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・社会におけるデータ・AI利活用に関する知識やデータを適切に読み解く能力

様式2

多摩大学

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度　令和6　年度（和暦）

②大学等全体の男女別学生数　男性 1445 人　女性 474 人　（ 合計 1919 人 ）

（令和6年5月1日時点）

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経営情報学部	1,324	317	1,280	188	137											188	15%
グローバルスタディーズ学部	595	147	600	1	1											1	0%
合　計	1,919	464	1,880	189	138	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	189	10%

様式3

大学等名 多摩大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 （常勤） 57 人 （非常勤） 90 人

② プログラムの授業を教えている教員数 11 人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名） 杉田　文章 （役職名） 教授(副学長)

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

多摩大学教学マネジメント会議

（責任者名） 杉田　文章 （役職名） 教授(副学長)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

多摩大学教学マネジメント会議規程

⑥ 体制の目的

当学では教学マネジメントに関わる方針の策定・検証・評価を行うことを目的とし、平成30年4月から組織され、現在に至るまで運営している。具体的には、教育プログラムの構築・改善・進化に関する事項等を審議する役割を担っている。なお、本プログラムについての改善・進化に伴う施策の策定は教務委員会が行い、自己点検・評価は教育・研究推進センター運営委員会にて実施する。各委員会の施策及び点検・評価の結果は、当該教学マネジメント会議に上程され、最終的な審議・決定を行うこととなっている。

⑦ 具体的な構成員

議長 副学長 教授 杉田　文章
委員 副学長 兼 グローバルスタディーズ学部長　教授　新美　潤
委員 経営情報学部長 教授 小林　英夫
委員 経営情報学研究科長 教授 河野　龍太
委員 教育・研究推進センター長 教授 小西　英行
委員 IR推進室係長 満岡　直之
委員 経営情報学科長 教授 出原　至道
委員 事業構想学科長 教授 下井　直毅
委員 グローバルスタディーズ学科長 教授　太田 哲
委員 経営情報学部教務委員長 教授　落合　孝彦
委員 グローバルスタディーズ学部教務委員長 准教授　田中 孝枝
委員 経営情報学研究科教務委員長　教授　川田　英樹
委員 多摩キャンパス教務課長 中澤　和臣
委員 湘南キャンパス教務課長 杉本　次郎太
委員 大学院事務課長 瀧川　浩人

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	10%	令和7年度予定	20%	令和8年度予定	32%
令和9年度予定	44%	令和10年度予定	61%	収容定員（名）	1,880

具体的な計画

【経営情報学部】
計画した履修者を実現させるため、以下の取り組みを実施する。
・修了証の活用例等をホームページに掲載し、就職活動での利用価値をアピールすることで学生への認知度を高めることを検討する。
・1～2年生を対象としたオリエンテーションの場を活用し、数理・AI・データサイエンスの重要性と当該プログラムのカリキュラムを案内することを通して、学生の履修意欲を促進させる。
・本プログラムを構成する「AIの活用基礎」について、2025年度から開講を1クラス編成から2クラス編成に変更し、より多くの学生が履修できる機会を設ける。
・本プログラム用の担当科目報告書を作成し、反省点や改善すべき点を洗い出した上で、履修率向上に向けた施策に反映させる。

【グローバルスタディーズ学部】
プログラムを構成する2つの授業において履修者は「AI・ゲームデジタル産業」が30名、「調査法入門：量的」が4名であった。オリエンテーション等を通して本授業の重要性を説明し履修者率向上を目指す。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

【経営情報学部】
・プログラムは学部ごとに科目を設置しており、経営情報学部では「AIの活用基礎」と「ICTコミュニケーション入門」が対象となる。また、グローバルスタディーズ学部では「AI・ゲーム・デジタル産業」と「調査方法入門：量的」を対象の科目としている。よって、学生が希望するれば受講できる体制が構築されている。また、学則の中で他学部科目の履修を認めることを定めている。

【グローバルスタディーズ学部】
グローバルスタディーズ学部では「AI・ゲーム・デジタル産業」と「調査方法入門：量的」を対象の科目としている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

【経営情報学部】
・多くの入学生に対し履修することを推奨するため、初年次教育の科目として位置づけている。
・大学の公式サイトで情報公開し、修了要件等を公開している。
・学内における複数の箇所にチラシを掲示することで、周知を図っている。
・大学のキャンパスシステムであるT-NEXTを用いて、初回授業前に入学生宛に案内の連絡を行っている。

【グローバルスタディーズ学部】
・大学の公式サイトで情報公開し、修了要件等を公開している。
・学内における複数の箇所にチラシを掲示することで、周知を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

【経営情報学部】
・本プログラムの受講にあたっては、エクセル等のOfficeソフトを利用することが必須となる。当学では在籍中に学生からの申請を以って、Microsoft 365ライセンスを提供する体制が構築されている。
・本プログラムを構成する「ICTコミュニケーション入門」では、授業内でExcel表計算処理技能認定試験を行うにあたり、受験申込のサポートを教務課窓口で行っている。
・学生自身が保有するパソコンに異常が発生した場合等を想定し、メディアサービスの窓口にてノートパソコンや周辺機器の貸出を行っている。
・GoogleClassroomの機能を用いて、講義資料のアーカイブや学修に役立つ参考資料の閲覧が可能となっている。

【グローバルスタディーズ学部】
・学部・学科に関係なく学生全員が受講可能となる制度としている。単位修得に向けたサポートについては、教員・チューター・SAにより、授業内外における学修支援体制を整備している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

【経営情報学部】
・オフィスアワー制度の採用により、授業科目の担当教員への直接質問等を受付ける時間を1週間の間で90分以上設定している。なお、本プログラムを構成する「AI活用基礎」と「ICTコミュニケーション入門」も当該オフィスアワー制度の適用対象となる。
・総合的な学修支援として、学修サポート室を図書館内に設置している。

【グローバルスタディーズ学部】
本教育プログラムについての履修をT-NEXT（授業支援システム）にて管理し、学生とのコミュニケーションはメール等を通じて行っているため、学生は授業時間以外に不明点等確認できる体制となっている。

様式4

大学等名　多摩大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

多摩大学教育・研究推進センター運営委員会

（責任者名）小西　英行　　（役職名）教育・研究推進センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	【経営情報学部】 本プログラムは2024年度以降入学生を対象としていることから、1年生のみを対象とした場合、365名中188名が履修し、修了者数は137名という結果になった。これは1年生の半分以上が本プログラムを履修し、且つ、70%を超える履修者がリテラシーレベルを修了したこととなるため、良好な結果であると評価できる。 【グローバルスタディーズ学部】 グローバルスタディーズ学部の本プログラムを構成する2つの授業において履修者は「AI・ゲームデジタル産業」が30名、「調査法入門：量的」が4名であった。両科目を修了した者は1名なので、ガイダンス等で履修者数を上げる改善が必要である。
学修成果	【経営情報学部】 ・本プログラムを構成する「AIの活用基礎」では、毎回の授業で課題提出を課しており、各回の講義における学生ごとの習熟度を確認する上で活用されている。 ・2024年度より本プログラムを構成する「ICTコミュニケーション入門」では、Excel表計算処理技能認定試験3級のCBT方式による試験を学内で実施することを通して、学修成果の測定を実施した。今後、デジタル教材の有効活用により、試験の合格率の向上にも努めていく予定である。 【グローバルスタディーズ学部】 ・「AI・ゲーム・デジタル産業」では、課題及び発表、復習テスト、期末テストを実施し、データサイエンス・AIへの理解と基礎的な能力を身につけることができている。 ・「調査法入門：量的」では、中間レポート及び期末レポートを実施し、量的データの集計方法の理解を深めている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	【経営情報学部】 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、プログラム構成科目の状況は以下のとおり4.00以上の高い評価数値となったことから、ある程度の理解度が身についたものと考えている。 ＜評価結果＞ 「AIの活用基礎」　：4.00(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」　：4.38(5段階評価、※クラス平均値) 【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」　：4.24(5段階評価) 「調査法入門：量的」　：5(5段階評価)
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	【経営情報学部】 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業は有益(効果的)でしたか」の項目について、プログラム構成科目の状況は以下のとおり4.00以上の高い評価数値となったことから、履修済の学生が他の学生に推奨できる授業内容であったと評価できる。 ＜評価結果＞ 「AIの活用基礎」　：4.00(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」　：4.38(5段階評価、※クラス平均値) 【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」　：4.24(5段階評価) 「調査法入門：量的」　：5(5段階評価)
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	【経営情報学部】 項番1で示したとおり、2024年度の履修者数については良好な結果がえられている。 また、当該プログラムを構成する科目である「AIの活用基礎」を、2025年度より1クラスから2クラス編成に見直すことで、履修者の増加を図っていく。 【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲームデジタル産業」が30名、「調査法入門：量的」が4名であることから、特に「調査法入門：量的」の履修者増に向けた取り組みを行う。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	【経営情報学部】 本プログラムを修了した学生が企業等に就職するのは、令和10年以降となる。 なお、当学では、卒業生の就職先に対し、卒業後アンケートを毎年実施している。当該アンケートを用いて、今後、リテラシーレベルの修了者の状況の把握と分析を行っていく予定である。 【グローバルスタディーズ学部】 当該プログラムが開設されたのが、令和6(2024)年度であり、まだ卒業生はなく、今後の取り組みとなる。今後、卒業時には可能な範囲で進路等の評価を実践する予定である。卒業後の企業等に調査をし効果の検証を実施していく。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	【経営情報学部】 2024年度は小田急不動産株式会社と多摩市にご協力頂き、アンケート及び情報交換会を実施した。今回は、DXの重要性に関する意見があり、具体的にはAIを活用できる人材の育成が求められていることについて情報共有した。今後、本プログラムに関しても、産業界からの具体的な意見を確認していきたい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	【経営情報学部】 学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「授業内容が興味深く触発されることが多い」の項目について、プログラム構成科目の状況は概ね4.00に近い評価数値となったことから、概ね達成できたと考えている。 ＜評価結果＞ 「AIの活用基礎」　:4.00(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 :3.96(5段階評価、※クラス平均値) 【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 :4.10(5段階評価) 「調査法入門:量的」 :5(5段階評価)
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	学生による授業評価(VOICE)結果のうち、「学生（院生）の理解水準を踏まえた説明をする」の項目について、プログラム構成科目の状況は概ね4.00に近い評価数値となったことから、概ね達成できたと考えている。 ＜評価結果＞ 「AIの活用基礎」　:3.91(5段階評価) 「ICTコミュニケーション入門」 :4.07(5段階評価、※クラス平均値) また、担当科目報告書から、2025年度は以下の改善の取組みを検討中であることを確認した。 ＜改善取組検討内容＞ 「AIの活用基礎」　:復習に効果的な動画教材を提供できるように準備する。 「ICTコミュニケーション入門」:Windowsパソコンを前提とした授業であるため、Macパソコンの利用は不可とする対応を徹底したい。 【グローバルスタディーズ学部】 「AI・ゲーム・デジタル産業」 :3.76(5段階評価) 「調査法入門:量的」 :5(5段階評価) ＜改善取組検討内容＞ 「AI・ゲーム・デジタル産業」 :アクティブ・ラーニング手法を用い、授業内容について学生が自ら調べ、考えたうえで、授業内で発表することにより、AI・データの利活用に対する理解をさらに深め、より高い教育効果を目指している。 「調査法入門:量的」 :計量経済学の手法を学習する上で前提となる推測統計学に関する教材を準備し、講義における学習の入り口とする。

大学等名	多摩大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	多摩大学 数理・データサイエンス・AI教育基礎プログラム	申請年度	令和7年度

取組概要

目　的

「文系・理系の枠を超えた知識・教養」「数理・データサイエンス・AIに関する専門知識」を身につけた学生を輩出し、多摩大学の教育目標である、「多摩グローカル人材の育成」を達成する一助とする。
「数理・データサイエンス・AI教育」への取り組み、学部間交流、及び教育のDX化をさらに推進する。

身に付けることのできる能力

「数理・データサイエンス・AI」に関する専門的な基礎知識

実施体制

○プログラムの自己点検･評価を行う組織体

多摩大学教育・研究推進センター運営委員会

【役割】
◎ VOICE等による学生アンケート結果を元に、MDASHの認定科目における授業評価結果について点検・評価を行い、教務委員会へ報告する。
◎認定科目の担当教員へ自己評価とVOICEに基づく次年度以降の改善提案を依頼し、別途報告書として取りまとめた上で、内容を点検・評価する。

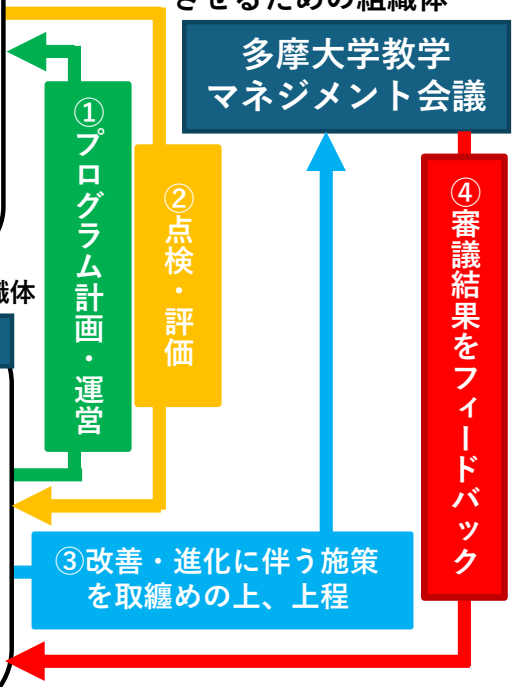
○プログラムの準備･プログラムを改善及び進化させるための組織体

教務委員会

【役割】
◎学内広報活動を通じてMDASHに関わる科目の履修を促進させる。
◎プログラムの整備にあたり、数理・データサイエンスの体系的な学修を強化するためのシラバス作成とカリキュラム編成を計画的に実施する。
◎対象科目の履修者数や認定証の発行数等について計画目標を策定。毎期、結果数値に基づく分析を行った上で、改善策を協議する。

○プログラムを改善･進化させるための組織体

多摩大学教学マネジメント会議



※プログラムの運営に当たっては、①～④の順でPDCAを確立

開講されている科目の構成と修了要件

IT技術やデータ活用における基本知識を身につけることを目標とし、学部に応じた以下2科目の単位修得を認定条件とする。

○経営情報学部

科目名称	区分	単位
AIの活用基礎	必修科目	2
ICTコミュニケーション入門	必須科目	2

○グローバルスタディーズ学部

科目名称	区分	単位
AI・ゲーム・デジタル産業	必須科目	4
調査法入門：量的	必修科目	4